

研究所ニュース No.69

りべらしおん

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com

展望のもてる「50周年」をめざして 研究の拡充、会員の参加、若い世代の結集を

公益社団法人福岡県人権研究所 所長 松尾祐作

ご承知のとおり、昨年、研究所の前身である福岡部落史研究会発足以来 40 周年を迎え、関連事業として記念講演、祝賀パーティ、記念出版等と行いました。この取り組みは、9. 28集会のスローガン

ここへ そして ここから

に示されているように、単に過去の 40 年を懐かしむというのではなく、研究所の未来への展望を切り開く一歩にしようというものでした。

一方、この取り組みの中で、研究所はさまざまな課題を抱えていることも確認しました。まず財政問題。ここ数年は自治体等からの受託事業をいただきましたが、受託事業はいつもあるとは限らず、不安定です。

また、行政からの補助金も減額されつつあり、将来予断を許さない状況にあります。会員の拡大や財源確保に一層努めなければなりません。そして、何よりも研究所本来の使命である部落史・部落問題を中心とした人権問題の研究の一層の深化・拡大が求められています。そのためには、それぞれの研究領域への会員の幅広い参加と協力が必要です。特に若い世代の力の結集が期待されます。

今年度は、柳井美枝事務局員が退職し、新たに峰司郎事務局員を迎えました。これからも、さらに前進できるよう、展望のもてる「50周年」をめざして共に頑張りましょう。

2015年2月27日 (金)

**史実と授業・啓発の結合をめざして
／第2回人権啓発担当者のつどい
(第184回定例研究会)を開催しました。**

2月27日(金)、「史実と授業・啓発の結合をめざして」「第2回人権啓発担当者のつどい(第184回定例研究会)」を北九州人権フォーラム 21 と共催で行いました。「水平社宣言を世界記憶遺産に」の題で、水平社博物

井忠之さん(水平社博物館)



(写真は、講師の駒井忠之さん)

「水平社宣言を世界記憶遺産に」(水平社博物館 学芸員 駒井忠之さん)

館学芸員の駒井忠之さんが講演しました。会場の北九州市男女共同参画センター（ムーブ）には企業や行政の啓発担当者、教員、市民など約80人が集まりました。

駒井さんは、全国水平社創立宣言の歴史的価値として、世界で初めて被差別マイノリティ自身が創造した文章であること、歴史的意義としては、人間性の尊厳を高らかに謳いあげた人間宣言であり、日本初の「人権宣言」であることなどを紹介しました。

宣言文の「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」は全世界のすべての人々に対して向けたメッセージで、抑圧が絶えない現代社会の中で被差別マイノリティだけでなくマジョリティーの解放をも希求したものであること。水平社宣言からは差別の撤廃、人権の確立、戦争の根絶、貧困や抑圧からの解放、そのために必要とされる協調や寛容など、貴重なメッセージが発信されていると指摘しました。

さらに、1922年当時の水平社宣言に対する海外メディアの取扱いも紹介し、水平社宣言がユネスコの世界記憶遺産として登録されるよう、支援・協力してほしいと呼びかけました。

参/加/者/の/感/想



◇ 水平社の創設について知らないことが多く、思いや動き、歴史的背景を知ること

予告 「水平社宣言を世界記憶遺産に Part2」を、5月31日(日) 14:30～ 定時会員総会後に行います。

講師 朝治 武さん (大阪人権博物館館長)

集うことの大切さを強く感じた。中学校で授業をしていく際に深みのある授業展開ができるのではないかと思います。水平社創立宣言についても、授業の中で流れていくように進めていきましたが、被差別マイノリティが出した世界初の人権宣言であるということをしつかり意識しながら、授業を展開すれば重みのある授業ができそうだと感じました。

◇ 「水平社」について学習する時、内容を子ども達に理解するように教えていて難しさを感じていました。教材化をぜひお願いします。広まる第一歩だと思います。

◇ 水平社宣言の意義を改めて感じました。学校で学習するときにもしっかりと伝え、すばらしさを感じられるようにしていきたいと思いました。その中で部落で生まれた人たちのすばらしさ、パワーを感じていきたいです。是非、登録できればと思います。

◇ 全国水平社の創立までの道すじや、水平社宣言の意義がよく分かりました。世界記憶遺産に登録されることで今ある差別について多くの方が考えていければと思いました。

◇ 他研修にて、世界記憶遺産登録への取組みの話を知ったが、それに比べ「志」を感じられる内容であった。実に有意義な講演であったと思う。

◇ 水平社宣言のとらえ方、位置づけ、価値がグローバル化されていることや大和同志会の再評価など、現代的でなるほどと思った。駒井講師のような若い研究者の活躍を期待し、水平社宣言の価値をもっと評価していかなければならないと思った。是非、記憶遺産に登録されるように声を上げていきたい。

受 託 事 業 紹 介

大牟田市「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」(全4回)を企画・運営しました (2014.12~2015.3)

福岡県人権研究所は、住民意識調査、実態調査、啓発資料の企画・監修、諸研修会の企画提供や運営等の事業を受託して実施しています。その一つとして、2014年度は、連続講座「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」(全4回)の企画提供と運営の委託を受け、大牟田市・大牟田市教育委員会と連携して次のような内容の連続講座を実施しました。



大牟田市は、「大牟田市人権教育・啓発基本計画」に基づいて、各種人権教育・啓発を推進しています。その中でも特に、人権に関わりの深い特定職業に従事する人々に対するの研修が不可欠であるとし、2014年度は主に保健・医療・福祉の分野からの受講者を対象とした「人権啓発リーダー養成講座」と、過去の「養成講座」受講者を対象とした「フォローアップ研修」を実施したものです。研修の目的は、①人権や差別の問題についての理解をより深める、②養成講座受講者・修了者同士のコミュニケーションを図る(気軽に相談できる仲間づくり)、③人権のまちづくりのためのネットワークづくりのきっかけをつくる、というもの。受講者には『啓発リーダーの手引き』とともに修了者には「修了証」が渡されました。

参/加/者/の/感/想/か/ら

- ◇ 「安心・自信・自由」=人権尊重であること、とても分かりやすい表現でした。
- ◇ 「頭構え、心構え、身構え=納得感」が大きい言葉でした。
- ◇ 「安心して徘徊ができる」という言葉が印象的。相手の気持ちに寄り添い、地域ぐるみで行動することのすばらしさを知りました。自分でも何かできたらと思います。
- ◇ 窓口業務や家庭・地域等で人権感覚を意識して行動せねばと思いました。
- ◇ ワールドカフェ形式というやり方をはじめて知って勉強になりました。
- ◇ 日々の意識(マネジメント)の大切さを感じました。

第1回(2014.12.8)

○ 開講式

- 1 「“人権のまちづくり”がめざすもの—どんな人を育てたいのか、どうすれば育つか」
(福岡県人権研究所事務長 谷口研二)
- 2 ワールドカフェで分かち合い(写真)

第2回(2015.1.16)

- 3 「大牟田市民人権問題意識調査から見えるもの—20代を中心に」
(福岡県人権研究所理事 加藤陽一)
- 4 「啓発ビデオ『私』のない私」で考える—“確固たる人権意識”とは？」
(福岡県人権研究所事務長 谷口研二)

第3回(2015.2.3)

- 5 「まちでみんなで認知症の人を包む—共感と協働のまちづくり」
(グループホームふぁみりえ ホーム長 大谷るみ子)
- 6 ワールドカフェで分かち合い

第4回(2015.3.13)

- 7 「“差別の現実と人権のまちづくり”—協働の地域力による新たな共同体の必要性と活動の重要性」
(九州大谷短期大学非常勤講師 組坂幸喜)
- 8 「人権のまちづくりへの期待—『貧困の連鎖』の見方・考え方」
(西南学院大学人間科学部 社会福祉学科准教授 大西祥恵)

○ 閉講式

投 稿 全 国 人 権 ネット ワ ー ク

人権ネット加盟団体から、今号では「公益財団法人鳥取市人権情報センター」を紹介します。

公益財団法人鳥取市人権情報センター

出会い・つながり・ネットワーク

○ 成り立ち

鳥取市では、1965年の同和対策審議会答申をふまえて諸施策を積極的に推進するとともに、1999年には「鳥取市における部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくす条例」が施行されました。そして1997年に第2次「鳥取市同和対策総合計画」が策定され、部落問題をはじめとする人権に関する取り組みを効果的に推進するための体制の整備について検討がされました。そして、1999年4月1日に、同和教育並びに企業及び市民啓発の条件整備を図る拠点施設として、部落問題をはじめとする人権に関する情報及び資料の収集提供、調査研究、啓発相談等の事業を展開するため、鳥取市人権情報センターは設立されました。



鳥取市人権交流プラザ

2013年4月1日、鳥取市に暮らし、働き、学び、集う全ての人の人権が尊重され、

差別、偏見及び人権侵害のない社会の実現を目指して、公益財団法人鳥取市人権情報センターとして、新たに出発しました。

○ 事業の紹介

当センターの事業の柱は大きく4つに分けられています。

◇ 講座・セミナー・育成事業

市民の多様なニーズに基づき、各種研修会を設定し、人権を自らの権利ととらえ、全ての人が共有していることを学び、活用することを目的に開催しています。

市民参画型の研究部会としては、毎月1回開催している部落問題研究部会、年に4回開催しているヒューマンライツセミナー、随時開催の人権教育・保

育研究部会があります。部落問題研究部会では、これまで反差別・人権の思いを強く持つようになった方に聞き取りを行い、人は何がきっかけで変わっていくのかということを中心に「反差別・人権意識の形成を探る ライフストーリー調査」を行ったり、また、今年度は、市民が地域で人権問題について語り合う小地域懇談会をさらに発展するための方策はないかを探る「鳥取市小地域懇談会 充実発展のための実態調査」をまとめたりしています。

多くの市民の方に人権について考えていただく場としては「人権の集い」があり、今年度は歌手の米良美一さんや元プロ野球選手の矢野燿大さんに講演していただきました。

また、鳥取市からの委託事業として、6回の講義と1回の講演会とおして、地域・職域で人権教育・啓発の



取組を推進する人材の育成を目的とした「人権とつとり講座」を開催しています。

◇ 人権市民活動支援事業

鳥取市内において活動する市民団体やNPO等が、自主的に企画して実施する人権教育・啓発事業や人権のまちづくり活動を行う場合に、その経費の一部を助成し、市民自らが学び実践する活動を支援しています。

◇ 相談・助言事業

「まさか自分には関係ないだろう」と考えている人権侵害にあったとき、どこに相談していいかわからない人にとっての最初のアプローチの場として、利用していただいています。センターでの相談に加え、鳥取市や専門機関など、適切な相談場所の紹介

も行います。

また、研修の担当になっても何をしたいかわからないという方などを対象に、地域・職域での研修企画の相談、視聴覚教材の選定、講師の紹介・派遣、資料作成の依頼、情報提供、視察の受入など、各種相談に対応しています。

◇ 普及・啓発事業

タイムリーな話題やイベント情報を提供する機関紙「ライツ」(毎月1回)と、じっくり考えてほしいテーマを掘り下げる機関誌「架橋」(年2回)を発行しています。今年2月に発行した「架橋」32号では、特集「ヘイトスピーチを考える」と題して、当事者としての立場から、カウンター活動を行っている人の立場から、法学的な立場からなど、さまざまな視点で寄稿していただき、ヘイトスピーチの問題について考えました。

その他にも、人権啓発リーフレットや人権カレンダーなどの啓発教材の作製や、ホームページなどのメディアの活用をとおして、広く人権に関する情報を提供しています。また、当センターに所蔵している書籍や視聴覚教材の閲覧・貸し出しを行っています。



鳥取にお越しの際には、ぜひセンターにお立ち寄りください。

公益財団法人 鳥取市人権情報センター

- 所在地 鳥取市幸町151 鳥取市人権交流プラザ内
○ 開館時間 8時30分～17時15分
○ 休館日 土・日曜日、祝日、年末年始
○ TEL 0857-24-3125
○ FAX 0857-24-3444
○ URL

http://www.tottori-jinken-joho-center.or.jp

『リベラシオン』編集担当から 157号巻頭グラビアで紹介した“明月の「口蓮華」5年に一度のご開帳”の紹介 2015. 5. 15(金)

『リベラシオン』編集担当から 157号巻頭グラビアで紹介した“明月の「口蓮華」5年に一度のご開帳”が、2015(H27)年5月15日(金)に行われます。
▷場所: 萬行寺(福岡市博多区祇園町4-50) 13:20～明月の法要 14:00～法話 15:30～「口蓮華」の拝観
お問合せ 092-291-1556(萬行寺)

お知らせ

公益社団法人福岡県人権研究所 2015年度定時会員総会 ・ 記念講演

▷日時 2015年5月31日(日) 受付 12:30～13:00～定時会員総会 14:30(予定)～ 記念講演 演題 「水平社宣言を世界記憶遺産に Part 2」 講師 朝治 武さん (大阪人権博物館館長)

▷会場 福岡県人権啓発情報センター (ヒューマンアカデミア) 電話 092(584)1271 春日市原町3丁目1番7号(クローバープラザ7階) JR「春日駅」そば ※ 駐車場が有料になりました。

※委任状を出す方は、5月13日(水)までに同封のはがきに必要事項を記入して投函して下さい。

主催 人権社会確立第35回全九州研究集会実行委員会 「人権社会確立第35回全九州研究集会」 ▷日時 2015年5月26日(火)～27日(水) ▷会場 熊本市総合体育館

主催 ハカタ・リバイバル・プラン 語り部会「私の愛する町 清川」 ▷日時 <参加無料> 2015年5月7日(木)19:30～ ▷内容 朗読会「清らかな風の吹く町」 岩崎美枝子さん (『リベラシオン』157号参照) ▷場所・連絡先 立石ガクブチ店(博多区大福町4-32) 電話 092-281-4008

会員の声

ひとり芝居「言葉を贈るサンタクロース」公演記
～人権まつり太宰府2015への参加～

人権まつり太宰府(2015年2月22日)で、ひとり芝居「言葉を贈るサンタクロース」を公演する機会を頂きました。久しい方々に見守られ、なんとかやり遂げることができました。関係者の方々には深く感謝申し上げます。ひとり芝居の目的と内容を簡単に紹介致します。

日本では、自死を選択させられる人が毎年約3万人も出ています。そして、その数百倍に及ぶ方々が、生きにくさをひた隠しにして、日々をやり過ごしています。いまの時代、「死んでしまいたい」と思うのは、特別なことではありません。のんびり散歩するおじさんも、電車で化粧をなおすお姉さんも、はたまた将来を嘱望される若手研究者も、そうなる時・そうなったときはあるはずです。現在の日本に限定していえば、人間は“死んでしまいたい”と思う生き物、そんな風にさえ言うことができます。と思います。



「君だけがそうじゃない。」
劇を通して伝えたいのは、このことです。生きにくさを言葉にすることは、はっきり言って難しいです。“我慢が足りない”とか“わがままだ”とか、そんなことを言われるのが怖くて、心を閉じていたいという方はかなりいらっしゃるはず。だけど、もし“死んでしまいたい”と思うのは自分ばかりじゃないと知っていたら…。誰かに相談したり、誰かの声にこたえたりすることが少しはできるようになるのかもしれない。このお芝居は、そんな願いのもとづいてはじめたものです。

ストーリーは、大阪弁のサンタクロースと悩み多き高校生のふたりの対話形式ですすみま。高校生が、まさにその行為に及ぶとき、突然、サンタが現れます。「死神が出た!?!」と驚く高校生と、「本物のサンタだ!!」と説明するサンタクロース、そんなドタバタからはじまって、あることをきっかけに次第に心を打ち明ける。基本的な流れはこんな感じです。約40分のひとり芝居、対象は中学生以上を想定しています。

道徳の時間等で、これまでに実際に見せてきた中学生の感想を一部紹介したいと思います。

○「初めは漫才かなと思ったけど、見ているうちに入り込みました。」

○「自分も数十回ぐらい死にたいと思ったりした。人生とか楽しくないけど死ぬのはまだいい。」

○「よくある～と思った。だけど方法とかわからないし、まだ生きているのは多分生きていたいからなのだろう。」

○「死にたいと思ったことは僕もある。困っている人に声をかけられる人になりたい。」

○「苦しいときに誰かは相談にのってくれると、いうことを知った。」

季節を選ぶ作品ですし、日頃接している教師が必死で演じることに意味があるのかもしれませんが、興味を持たれた方は福岡県人権研究所にご連絡下さい。公演のご相談でしたら、職務に支障のない限りお受けさせて頂く所存です。



(筆者)

(会員 せき よしひさ)

公益社団法人福岡県人権研究所 2015年度 事業等計画(仮/案) 参考
2015(平成27)年度 公益社団法人福岡県人権研究所 主な年間スケジュール(案)
2015(H27)年4月20日現在

()内の数字は日付ですがいずれも変更の可能性あります。ご注意ください。

Table with 5 columns: 月, 総務等, 調査・研究活動事業, 県民啓発、出版等事業, 関連行事. It lists various activities and events throughout the year, including conferences, seminars, and publications.

スケジュール、事業内容等は変更することがあります。通常総会5/31(日)の際に改めて提示します。

事／務／局／日／誌／か／ら (2015年2月20日～4月20日)

2月

- 23(月) 事務局会
 27(金) 「史実と授業・啓発の結合をめざして」・第2回人権啓発担当者のつどい(第184回定例研究会)(北九州市/駒井忠之「水平社宣言を世界記憶遺産に」)

3月

- 2(月) 事務局会
 6(金) 史資料整理・保管に関する打合せ会
 7(土) 部落史研究部会(福岡市)
 8(日) 第6回執行理事会(春日市/県人権啓発情報センター) 第3回理事会(同左)
 12(木) 史資料整理・保管に関する打合せ会
 13(金) 大牟田市「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」第4回(組坂幸喜「差別の現実と人権のまちづくりー協働の地域力による新たな共同体の必要性と活動の重要性」、大西祥恵「人権のまちづくりへの期待ー『貧困の連鎖』の見方・考え方」)(大牟田市)
 15(日) 第1回九州地区大学人権教育研究協議会(福岡市)
 16(月) 事務局会
 20(金) 『リベラシオン』No.157発行 第55回松本・井元研究会
 23(月) 事務局会 筑前竹槍一揆ウォーク(第13回)打合せ(歴史学習プロジェクト+事務局)
 30(月) 事務局会 公益社団法人定期提出書類提出

4月

- 1(水) 辞令交付
 6(月) 事務局会
 10(金) 史資料整理・保管に関する打合せ
 13(月) 事務局会
 14(火) 定期監査
 20(月) 事務局会 部会長・運営委員合同会

※住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については省略しています。

事務局のメンバーがかわりました

退職のごあいさつ

柳井美枝

3月31日付けで福岡県人権研究所事務局を退職しました。長い間、会員のみなさまにはお世話になりました。心から感謝いたします。

2015年度は「特命研究員」として研究所に関わってまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

新事務局員です

峰 司郎

4月1日、柳井さんからバトンを受け取りました。昨年度まで2年間、教育部会の部会長として福岡県人権研究所に関わってきました。「そしてこれから」。

人権文化の創造に向けて発信できるようにチャレンジ精神をもってがんばっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

『部落解放史・ふくおか』バックナンバーをそろえるチャンスです!!

本研究所事務局の書架、倉庫等の収納が限界を超えています。本年度は機関誌のバックナンバーの一部を処分して収納スペースを確保する予定です。バックナンバーをご希望の方は、研究所ホームページや機関誌155号の「総目次」

を参照して、希望号数を5月31日(定時会員総会の日)までにお知らせ下さい。貴重な史資料・論文満載です!!。(113号までは無料。140号までは半額。一部欠号あり。詳細は、事務局にお問合せください。)